

## 特許紹介-2

特 許 / 第1327847号  
 発明の名称 / **電気缶切機**  
 発 明 者 / 山本 修  
 法月仙一郎

### 〈従来技術とその問題点〉

一般に缶のふたを自動切開する電気缶切機は、缶のふたを切開する機能しか備えていないため、例えばレモンやオレンジ等の果実を搾汁してジュース類を作る場合には、専用の果汁絞り機が必要となり、不便であり不経済であった。

### 〈発明の構成〉

この発明は缶切機本体に、缶切りアタッチメントと搾汁アタッチメントとを取付可能にして、缶のふた切開と柑橘類の搾汁とを行うようにしたものである。

図1のように、電気缶切機は、缶切機本体と缶切りアタッチメントと搾汁アタッチメントとで構成されている。缶切機本体は平坦な作業面を有した箱状のハウジングと、ハウジング内に電動機と減速歯車を備えた駆動部とからなっている。缶切りアタッチメントは、カッタ支持板に缶送りギヤを取付けて駆動部と取外し自在に連結する駆動軸と、カッタ支持板をハウジングに着脱可能に取付ける取付軸とからなっている。搾汁アタッチメントは、中央に釣鐘状の搾汁体を設けてその中心に駆動部と取外し自在に連結する回転軸を垂設したろ過皿と、搾汁した果汁を貯留する搾汁受皿とからなっている。

缶のふたを切開するときは、図2のように、缶切りア

タッチメントを缶切機本体にセットし、缶送りギヤ上に缶の耳部下側をのせ、この状態で缶の耳部内側にカッタを喰い込ませて缶を回転させてふたの切開を行う。

柑橘類の搾汁に際しては、図3のように、ハウジングの作業面を水平にして搾汁アタッチメントを缶切機本体にセットし、柑橘類を上から押し付けることにより搾汁体を回転させて搾汁し、この搾汁された果汁を、ろ過皿によりろ過して搾汁受皿に貯留する。

### 〈発明の効果〉

- (1) 缶切機本体に、缶切りアタッチメントあるいは搾汁アタッチメントを選択的にセットすることによって、一つの駆動源で缶のふた切開と、果実の搾汁が簡単に行うことができるので、大変便利である。
- (2) 搾汁アタッチメントは搾汁体にろ過皿が一体に設けられているため、果汁は絞りがすをろ過した状態で得ることができるので、ろ過の手間が省け、直ちに飲用することができる。(宮地 記)

### 関連特許

アメリカ合衆国特許 第 4534108 号  
 発 明 の 名 称 電 気 缶 切 機

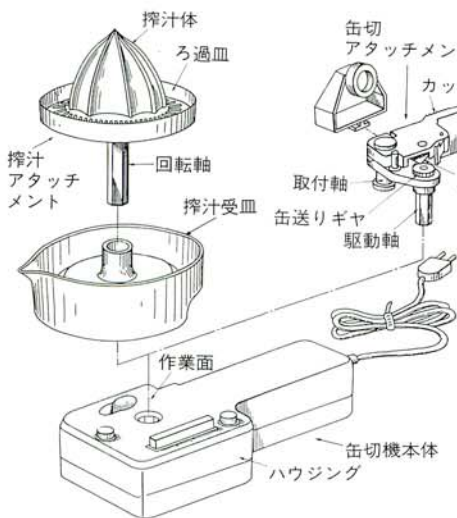


図1 / 電気缶切機の分解斜視図

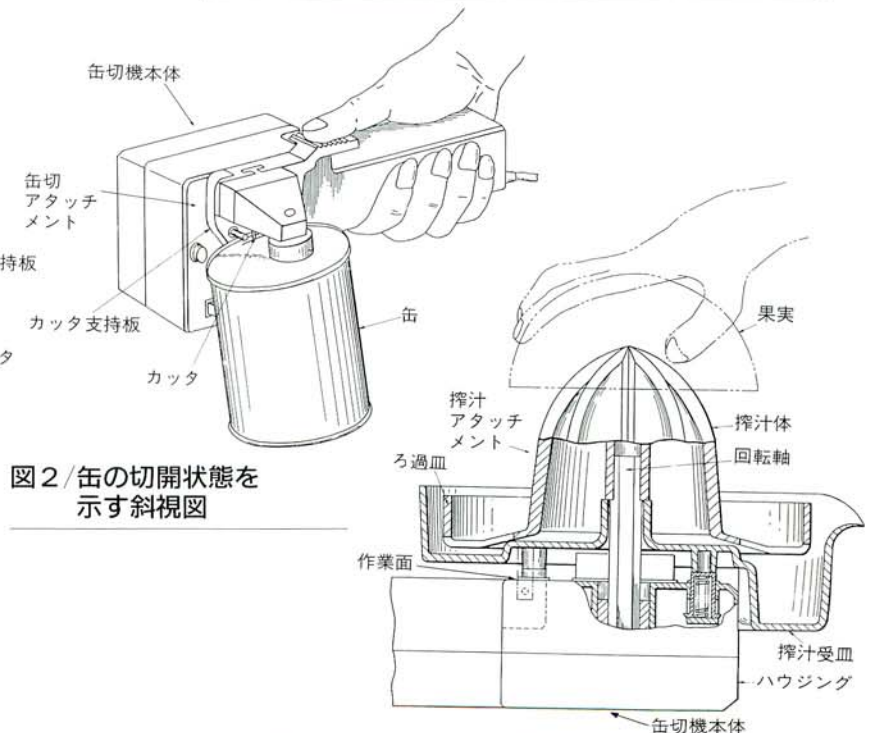


図3 / 搾汁状態を示す断面図